

Rotary

Rotary Opens  
Opportunitiesロータリーは機会の扉を開く  
2020～2021年度 ヘルガー・クナーク RI会長テーマ

## WEEKLY BULLETIN

2021年3月25日(3382例会)(創立70周年) 呉ロータリークラブ週報 NO.3296

## ■呉RC 2020～2021年度テーマ 「調和と未来への継承」

会 長 長 尾 正 嗣  
副 会 長 長 行 事 義 人 幹 事 石 田 直 樹 会長エレクト 福 田 多 喜 二  
直前会長 志々田幸治 会 計 畦 淳 造 会場監督 中 崎 誠

(事務局) 〒737-0045 呉市本通4丁目8-12 (例会場) 〒737-0051 呉市中央1丁目1-1 呉阪急ホテル  
呉商工会議所ビル南館7階 705号室 ☎(0823)20-1111 FAX(0823)20-1120  
☎(0823)24-4411 FAX(0823)21-5692 (例会日時) 毎週木曜日 12:30～13:30  
E-mail▶kure3rc@urban.ne.jp HP/URL▶http://www.kurerotaryclub.jp My Rotary▶https://my.rotary.org/ja/user

## 今週のメインプログラム

## 親睦活動委員会担当例会

## 次週のメインプログラム

母子の健康 月間  
社会奉仕委員会担当例会  
外部講師  
呉市手をつなぐ育成会  
副会長・常務理事 徳永玲子 氏

## 第3381例会記録【3月11日(木)】

【プログラム】 ◇会員卓話：平野誠宏君

自己紹介。広島ガスの業務。都市ガスの供給の案内。担当した業務の経緯及び案内。SDGs、環境経営の概念及び取組みの説明。カーボンニュートラル化に向けての取組み説明。

【出席率】 前々回 休会 今回 89.39% (会員69名・欠席7名・免除3名)

【来客】 ◇大矢宏典君・明神 博君・志々田幸治君の御同伴者  
ビルックス株式会社 代表取締役社長 藤井 聖様

【他クラブ出席者】 ◇海生(知)君(3/9呉南)山本・沖田・西藤君(3/17呉東) 4名

【欠席者】 ◇海生(知)・坂田・島村・太刀掛・堀口・山村・山本君 7名

【出席免除者】 ◇大矢・奥川・海生(孝)君 3名

【幹事報告】 ◇RI第2710地区2020-21年度地区大会実行委員会事務局…2020-21年度地区大会本登録のご案内(配布)を配布しております。5月16日(日)本会議のみの開催で食事もございません。本来であれば移動用のバス手配も事前にご案内すべきなのですが、今回は参加申込を頂いた後、人数とコロナ対策を踏まえたご案内とさせていただきます。相乗りを含めた自家用車。もしくはJR+タクシーとなる可能性が高いと思われます。ご理解の程、宜しくお願い致します。

◇呉東ロータリークラブ…例会変更・例会取消のお知らせ。3/24(水)創立61周年記念例会の為、17:00～18:00に時間変更。(例会終了後、お弁当のお持ち帰り)。4/28(水)・5/5(水)定款7条第1節(d)(1)の為例会取消。

◇江田島ロータリークラブ…例会休会のお知らせ。3月18日の例会を定款第8条第1節(C)により休会と致します。

◇呉ロータリークラブ スマホ教室2回目が3月18日に開催される予定です。

【S.A.A】 ニコニコ



◇神垣和典君…9日呉C.C.で行われた広島銀行さんのゴルフコンペ「広友会」団体の部で、2回連続優勝をしました。会長にふさわしいニコニコです。前は主力でしたが、今回は同伴メンバーが優勝、4位、9位でダントツ優勝。私は4番手52位で賞品にだけありつきました。他力本願と云われても、やはり廻るメンバーは選ばなければいけません。廣江さん、ご配慮ありがとうございました。21日の呉ロータリークラブゴルフコンペ・ファミリー大会も27名集まりました。感謝です。

◇三宅清嗣君…このたび日本酒造組合中央会の副会長、並びに日本酒造協同組合連合会の理事長に就任致しました。恐らく2期4年のお勤めになろうかと思えます。不在が多くなり皆様に御迷惑を今以上におかけするかと思えますのでお詫びを申し上げます。ちなみに虎ノ門にあるビルの中にも私のデスクがあります。

◇大塩 俊君…日本経済新聞に紹介記事を書いて頂きました。内容はかなり盛ってある様でお恥かしい限りです。なお来週は5upという地元局の番組に出してもらおうようです。

◇入会記念日・事業所設立記念日の御紹介

◎ニコニコ基金金額 48,000円(累計金額 1,174,000円)

# 私の仕事と職業奉仕



佐藤 政秀

学生時代の専攻は「金属疲労」、卒業後の職業として選択したのは「障がい福祉」。後に笑い話として「当時は、せっかく大学まで行かせたのに、よくわからん仕事に就いて・・・広島市の役所に勤めていると親戚には言っている」と母から聞かされました。私が初めて関わることとなる25年前の障がい者施設は、母が発したように一般の方はよくわからない、世間一般から隔離されたような存在であったように思えます。そして、その施設を利用する障がい者に対して、行政は「措置」という形で扱っていました。また、当時は、利用者はどこに行っても稀有な目で見られ、施設を作ること、テナントを借りることさえ困難で、どうすることもできなかった時代であったことを思い出します。

その後、「措置から契約へ」という時代の流れの中で、利用者という地位が確立され、現在は、多くの事業者が参入し、障がい者の社会参加が進み、施設は「選ばれる」時代に入ったと感じます。

さて、当施設には、主に、身体、知的、精神に障がいを持たれた方が来られますが、年齢層は10代から70代まで、得意なこと、不得手なことを職員は聞いてまたは見極めて、継続できる作業を一緒に行っています。利用者の中には、意思疎通ができない方、強いこだわりを持たれた方も多く、指定の位置に指定の物がないとパニックになったり、時に警察にお世話になることもあります。そして、この作業には、パン、菓子、手芸製品を製造することや、洗車や草抜きなどの清掃業務や封入等を請け負う仕事があります。こうした作業で得た売上から材料費等の経費を除いた残りが、わずかではありますが、利用者に工賃として支払われます。この工賃と年金でなんとか生活が成り立つような支援を行っていくことが、私達に求められています。そして、保護者亡き後に向けて、この生活設計を確立していくことが、この仕事の最重要課題であり、将来にわたって続けていく私のライフスタイルにもなっています。